

ヤグチ ミツル
矢口 満 教授

経済学部 経済学科

■ 研究業績等

【論文】

- ・学術論文 「国際的な議論を呼ぶ EU の国境炭素調整措置 ～日本でも議論参加に向けて炭素排出量の計測などが課題に～」 月刊資本市場 公益財団法人資本市場研究会 (434):pp.47-55 (単著) :2021/10
- ・その他論文 「世界経済の持続性確保に向けて求められる金融の役割 ～サステナブル・ファイナンスの現状と課題～」 Newsletter 公益財団法人国際通貨研究所 nL2020(26) (単著) :2020/11
- ・学術論文 「新型コロナウイルスの感染拡大で重要性の高まるサステナブル・ファイナンス」国際金融 一般財団法人外国為替貿易研究会 (1334):pp.26-32 (単著) :2020/07

【学会発表】

- ・国際収支マニュアル改訂の検討状況に関する報告へのコメント (日本金融学会 2020 年度 秋季大会) :2020/11
- ・暗号資産の国際収支統計への反映に関するコメント (日本金融学会 2019 年度 秋季大会) : 2019/10
- ・日本とアジアの金融市場統合 - 邦銀の進出に伴うアジアの金融の深化について - (日本金融学会 2018 年度 春季大会) :2018/05

キーワード

SDGs ESG サステナビリティ 温暖化 気候変動 グリーンボンド

対応可能なもの 講演 研修 研究相談(学術指導) 学術調査 コメンテーター 共同研究・受託研究

金融機関は気候変動問題における救世主となれるのか

研究の概要

近年、SDGs (国連で決議された持続可能な開発目標) や ESG (環境・社会・企業統治) への注目度が飛躍的に高まっています。そうしたなかで、地球環境の持続可能性に注目したサステナビリティ要素 (ないし ESG 要因) を考慮に入れた投融資である「サステナブル・ファイナンス」が、欧州を中心に金融市場や金融機関において、急速に拡大しています。

地球温暖化による気候変動問題に関して、産業界の一部には構造的に消極的な対応をとらざるを得ない業界があります。その点、金融業界は本来的にニュートラルな立場にあることから、問題解決に向けて積極的な対応をとることが可能です。

金融業界への期待が高まるなかで、民間金融機関サイドも、公益目的のためだけでなく、自らの金融リスク軽減も兼ねて、気候変動を含む環境リスクの分析と対応に力を入れ始めました。もっとも、そうした対応姿勢には、国・地域によりバラつきがあります。欧州勢が先行するなか、我が国の金融機関の取り組みが注目されます。

研究の詳細

研究・技術のプロセス 研究事例 研究成果 使用用途・応用例 今後の展開

海外におけるサステナブル・ファイナンスを巡る動きは複層的であることから、このテーマでは、以下の観点から多角的に状況を把握するようにしています。

- ・調達資金の用途を環境改善効果のある事業に限定した「グリーンボンド」、およびその発展形である「サステナビリティボンド」に関し、その市場がどの程度深化しているか。
- ・世界各国・地域の中央銀行や金融監督当局において、国際的に協力して気候変動リスクに対応するための態勢づくりが、どの程度進捗しているか。
- ・世界的にみて最も対応の先行している国・地域である欧州連合 (EU) においてサステナブル・ファイナンスの法制化がどこまで進んでいるか。

また、我が国でも現在、当局を事務局としたサステナブル・ファイナンス関連の各種審議会が開かれています。これらに注目すると、今後我が国の金融市場や金融機関がどのように変わるのか、サステナビリティにかかわる問題の解決に向けて何が期待できるのかが見えてくるのです。

産学官連携先に向けた
アピールポイント

- ・我が国ではまだ注目されていませんが、世界的には金融市場・金融機関こそが気候変動問題、そしてサステナビリティの問題を解決する切り札として期待されています！

ご連絡窓口

京都橘大学リエゾンオフィス (学術振興課) TEL : 075-574-4186 E-mail : aca-ext@tachibana-u.ac.jp